

第1節 生物多様性の保全および持続可能な利用

1 生物多様性保全活動の促進

(1) 三重県自然環境保全地域の指定

優れた天然林や植物の自生地、野生動植物の生息地などのうち特に自然環境を保全することが必要な地域について、自然環境保全地域現況調査結果に基づき、自然環境保全地域の指定の検討を進めます。

(2) 三重県自然環境保全地域の管理

三重県自然環境保全指導員等による巡回監視を行うとともに、標識を設置するなどの自然環境保全地域の適切な保全管理を行います。

(3) 県民との自然環境情報の共有化の促進

県内の希少な野生動植物や、保全すべき自然に関するさまざまな情報をホームページに掲載し、県民の皆さんとの情報の共有を進めます。

(4) 県立自然公園における生態系維持回復の取組

県内の自然公園における生態系の維持・回復を実現するため、令和元(2019)年度も引き続き、関係機関と協力し、外来種の駆除や植生回復活動などの取組を進めます。

(5) 開発行為の届出

三重県自然環境保全条例に基づき、1 haを超える規模の自然(樹林地、農地、湿地、湖沼等)が含まれた開発行為(宅地造成、土砂採取、土地開墾等)について、知事への届出を義務付けています。届出にあたっては、緑地の確保、希少野生動植物種の保護等に対する配慮を求めます。

また、近年湖沼等に浮かべる浮体式や土地の造成を伴わない太陽光パネルの設置により、希少種の生息・生育に何らかの影響が考えられることから、平成28(2016)年3月から新たに1 haを超える規模の「発電施設の設置」も対象としました。

(6) 希少野生動植物監視地区の指定

県指定希少野生動植物種の生息生育状況を勘案し、三重県自然環境保全条例に基づく生息地等の保全のための希少野生動植物監視地区の指定の検討を進めます。

(7) 鳥獣保護管理事業の実施

鳥獣の生息環境を保全するため、「第12次鳥獣保護管理事業計画」(平成29(2017)から令和3(2021)年度まで)に基づき、鳥獣保護区、特定猟具使用禁止区域等の指定・管理を行うとともに、鳥獣保護管理員による鳥獣保護区等の巡視、狩猟の指導等を行います(表2-1-1)。

表2-1-1 令和元年度鳥獣保護区等の指定計画(平成31年3月末現在)

区分	鳥獣保護区	特別保護地区	休猟区	特定猟具使用禁止区域	指定猟法禁止区域(鉛製散弾の使用禁止)
箇所数	8	—	—	7	—
面積(ha)	5,074	—	—	923	—
その他	期間更新	—	—	期間更新	—

(8) 移入種対策の推進

三重県自然環境保全条例において規定されている「地域の生態系に著しく支障を及ぼすおそれのある移入種をみだりに放逐することの禁止」の定着を図るため、令和元(2019)年度も引き続き外来種の啓発ポスターや啓発チラシを作成・配布し、被害予防3原則(入れない・捨てない・拡げない)について、広く県民の皆さんへ普及啓発を進めています(表2-1-2)。

表2-1-2 移入種による影響の事例

移入種名	影響事例
アライグマ(ほ乳類)	在来種との競合、農林水産業、生活環境等への影響
ヌートリア(ほ乳類)	土壌環境等の攪乱、農林水産業等への影響
カミツキガメ(爬虫類)	人の生命または身体に関わる被害
オオクチバス等(魚類)	在来種の捕食、農林水産業等への影響
オオキンケイギク(植物)	在来種との競合・駆逐
アレチウリ(植物)	在来種との競合・駆逐

2 里地里山里海の保全

里地里山の自然を守る地域の住民活動に対し認定や認証を行い、自発的な自然環境保全活動が促進されるような普及啓発を行います。

3 希少な野生動植物の保護

(1) 三重県レッドデータブック2015を活用した保全

「三重県レッドデータブック2015」の発刊をふまえ、生物多様性の保全上重要な地域における希少野生動植物種の生息・生育状況調査を継続的に進めます(表2-1-3)。

表2-1-3 「三重県レッドデータブック2015」掲載種数

分類群	絶滅	絶滅危惧	準絶滅危惧	情報不足
動物	5	216	139	79
昆虫類	14	230	107	83
植物	48	612	125	17
菌類	0	42	9	14
合計	67	1,100	380	193

(2) 三重県指定希少野生動植物種の指定・保護

三重県指定希少野生動植物種の適正な保全を図るとともに、必要に応じて三重県希少野生動植物監視地区の指定を検討します(表2-1-4)。

表2-1-4 三重県指定希少野生動植物(32種)
(平成31年3月末現在)

分類	種名(和名)
哺乳類	ツキノワグマ
鳥類	カンムリウミスズメ、カラスバト、ウチヤマセンニュウ、サシバ、シロチドリ
魚類	カワバタモロコ、ウシモツゴ、ネコギギ
昆虫	カワラハンミョウ、ヒメタイコウチ、ギフチョウ
甲殻類	ハクセンシオマネキ、シオマネキ
貝類	カナマルマイマイ
植物	ヒモヅル、ヘゴ、オオタニワタリ、オニバス、マメナシ、ハマナツメ、ムシトリスミレ、トダスゲ、ツクシナルコ、ヒメムカゴシダ、シデコブシ、フジワラサイコ、ヒキノカサ、アゼオトギリ、ヒメキサシグサ、マイヅルテンナンショウ、ミズギク

(3) 天然記念物の指定・保護

① 天然記念物の現状把握

天然記念物の適切な保存と活用を図るため、調査等を実施し、現状の把握に努めます。

② 特別天然記念物カモシカの生息状況調査の実施

鈴鹿山地および紀伊山地カモシカ保護地域付近において、カモシカの生息状況調査を実施します。

③ 天然記念物による食害防止対策

カモシカ保護とカモシカによる食害を防止するため、スギ・ヒノキ等の造林地に防護柵を設置する事業を支援します。

④ 天然記念物再生

ネコギギ生息確認河川およびその周辺河川において、ネコギギ保護増殖個体を放流することで野生個体群の復元・補強に向けた事業を支援します。

4 水辺や沿岸の環境保全

(1) 河川における親水空間の整備

① うるおいとふれあいのある水辺空間の形成

ボランティアによる花木の植栽や清掃等に対する支援を行います。

周辺景観や地域整備と一体となった河川改修を行います。

② 街のシンボルとしての川づくり

市町の行う街づくりと一体的な、街のシンボルとなる川づくりを進めていきます。

(2) 河川・溪流・湖沼の保全・再生

平成30(2018)年度に引き続き、令和元(2019)年度は二級河川三滝川等で自然環境に配慮した川づくりを推進します。

(3) 砂防事業における自然環境保全への配慮

「溪流環境整備計画」に沿った事業の詳細計画を作成し、この計画に基づき施設整備を進め、魚・水生動植物の産卵・餌場等生息域の確保等、自然植生・生態系の保全を図ります。

(4) ため池における親水空間としての整備

県内の農業用ため池について、用水源としての機能維持を図るとともに、生態や景観に配慮した親水空間としての整備を行います。

第2節 自然とのふれあいの確保

1 自然公園等の整備・活用

(1) 自然公園等利用施設の整備

豊かな自然に親しみ、ふれあう機会を増やすため、自然公園利用施設や自然歩道等の整備を計画的に進めるとともに、安全かつ安心して利用できるよう適正な維持管理を行います(表2-2-1)。

表2-2-1 自然公園事業(平成30年度)

公園名	施行地	種別	事業内容
伊勢志摩国立公園	輪倉園地	交付金	園地整備 駐車場整備
	安乗崎園地	交付金	園地整備 歩道整備
	築上園地・岩屋園地	交付金	園地整備 歩道整備
	近畿自然歩道(神島)	交付金	歩道整備
	近畿自然歩道(菅島)	交付金	歩道整備
	近畿自然歩道(大王崎)	交付金	歩道整備 公衆トイレ整備
	登茂山集団施設	交付金	園地整備
吉野熊野国立公園	阿田和園地	県単	歩道整備
	飛雪ノ滝野営場	県単	歩道整備

(2) 自然公園の管理・保護

自然公園内における各種行為に対する許認可の審査等により、自然公園を適正に保護・管理します。

(3) 三重県民の森および三重県上野森林公園の活用

森林公園の適正な維持管理を進めるとともに、指定管理者と連携して自然体験イベントを行うなど、県民の利用を促進します。

2 森林・水辺等の整備・活用

(1) 森林とのふれあいの促進

国土保全等の森林の持つ多様な公益的機能のうち、自然とのふれあいの場や学びの場となっている森林、名所、旧跡や趣のある景色を構成している森林などを保健・風致保安林として指定していますが、そのほか、水源かん養等特に重要な役割を果たしている森林を保安林として指定し適正な管理を進めます。

(2) 都市と農山漁村の交流の推進

① 自然体験の促進

豊かな自然を「体験」という形で生かしていくため、アウトドアレジャー、教育キャンプ、農林漁業体験など自然体験活動に取り組む活動団体への支援や、関連企業と連携した情報発信に取り組み、都市と農山漁村の交流を促進します。また、三重の里の魅力を、冊子「三重の里いなか旅のスズメ」やホームページ、メールマガジンで情報発信し、県民の農山漁村地域に対する理解醸成に取り組めます。

(3) 七里御浜海岸の侵食対策

人工リーフ等の整備を進めるとともに、養浜による砂浜の回復に取り組めます。

3 緑の保全・創出

(1) 地域特性に配慮した緑化の促進

① 緑化の推進

地域住民、ボランティア団体、市町、企業等、公益社団法人三重県緑化推進協会と連携協力し、県民参加の植樹祭をはじめ緑のイベントの開催や森林ボランティア活動支援を通じた県民参加の森林づくりを推進します。

② 緑化活動の促進

県民参加による緑化活動を促進するため、春季緑化運動期間中に「緑の募金」の普及啓発を行います。

第3節 森林等の公益的機能の維持確保

1 森林環境の保全(三重の森林づくり)

(1) 森林計画制度の円滑な執行

森林計画制度の円滑な執行のため、市町や森林所有者等への周知・指導を行います。

また、市町村森林整備計画の適正な実行を支援するとともに、森林所有者が樹立する森林経営計画の策定について支援をします。

(2) 森林の持つ公益的機能を高める多様な森林づくり(環境林整備)の推進

水源かん養や山地災害防止など、森林の持つ公益的機能の高度発揮を主な目的として、針葉樹や広葉樹が混交した多様な森林づくりを公的に行う森林環境創造事業等により環境林整備を進めます。

(3) 森林文化および森林環境教育の振興

「みえ森と緑の県民税」を活用し、県と市町が連携して森林環境教育を進めています。地域で行う森林環境教育・木育や森づくり活動の促進を図るため、「みえ森づくりサポートセンター」を拠点とし、市町や学校、森林環境教育・木育の指導者等からの相談に随時対応するなど、活動のコーディネートや森林環境教育・木育、森づくり活動に関する情報収集と発信、普及啓発を行います。

(4) 持続可能な森林整備の推進

造林・間伐事業等を適切に実施することにより、木材生産機能を最大限発揮する森林づくりを進めるとともに、二酸化炭素の吸収や水源のかん養など、森林の持つ公益的機能を増進します。

(5) 森林の適正な管理の推進

高度な公益的機能を持つ森林を保安林として指定し、公的な管理を進めるとともに、林地開発許可制度の適正な運用により、森林の適正な管理を行います。

(6) 保安林の持つ公益的機能の高度発揮

水源かん養や土砂流出防備に加え保健休養機能など、多様で高度な機能を持つ保安林の保全を図るため、間伐等による森林整備とコンクリートダム等の治山施設の設置を一体的に実施する、総合

的な治山対策等により適正な管理を行います。

(7) 林業の担い手の育成等

地域林業の担い手の育成・確保を目的に、高校生の林業職場体験研修や林業経営等を推進する活動を行っている林業研究グループ等の活動支援、木の駅プロジェクト等の進展に向けた自伐型林業の研修会を実施するほか、首都圏等での就業ガイダンスや公益財団法人三重県農林水産支援センターと連携した就業・就職フェアを開催します。

また、平成31(2019)年4月に「みえ森林・林業アカデミー」を本格開講し、新たな視点や多様な経営感覚を持った次代を担う林業人材の育成に努めます。

さらに、林業事業体が作成する事業の合理化や雇用環境・労働環境の改善をめざした改善計画を認定します。

(8) 環境に優しい素材である木材の利用推進

木を使うことは「緑の循環」につながることから、住宅および民間施設における県産材の利用を推進するとともに、平成22(2010)年12月に策定した「みえ公共建築物等木材利用方針」に基づき、公共施設等における県産材の利用拡大を図ります。また、市町に対しても各市町の木材利用方針に基づいた木材利用の推進を働きかけます。

2 農地環境の保全

(1) 農業の担い手の育成

新規就農者や企業等の参入促進、経営体の育成等を支援する公益財団法人三重県農林水産支援センターを核に、関係機関との連携のもと、就業希望の段階から経営の発展段階までを総合的に支援します。

また、平成26(2014)年度から実施している農地中間管理事業を活用して、担い手への農地集積を推進します。

(2) 中山間地域における農地の適正管理

中山間地域等直接支払や多面的機能支払などを実施し、農用地などの保安全管理の取組を推進します。

3 沿岸海域環境の保全

(1) 漁場保全対策の推進

漁場環境等の保全・改善を図るため、漁業者を中心とした多様な主体が参画する活動組織が行う海底の耕耘、海藻の種苗投入、ウニ類などの食害生物の除去、内水面域における河原の清掃などの環境保全活動を支援します。

(2) 養殖漁場の適正使用

持続的養殖生産確保法に基づき、適正養殖可能数量を設定した漁場改善計画により、養殖業者自らが実践する養殖漁場環境の保全活動や取組を推進します。

(3) 水産資源の生息環境の保全・創造

平成30(2018)年度に引き続き、英虞湾において浚渫事業を実施します。

(4) 藻場・干潟の保全・再生

沿岸漁場の生態系の回復と環境保全を図るため、藻場・干潟を造成します。

(5) 海浜の維持と保全

人工リーフ等により砂浜の流出防止を図るとともに、養浜による海浜の保全・再生を図ります。

(6) 海岸・港湾における親水空間の整備

護岸・堤防等の海岸保全施設の整備と併せて、海浜利用を促進するため、周辺の自然環境や海岸の生態系に配慮した養浜等を整備します。

(表2-3-1)

表2-3-1 海岸環境の整備（令和元年度）

海岸名等	事業内容
宇治山田港海岸（伊勢市）	堤防、養浜
井田地区海岸（紀宝町）	人工リーフ、養浜

4 水循環・浄化機能の確保

(1) 生物指標を用いた水質判定の普及・啓発

身近な河川の観察を行うことで、水質保全に係る意識向上や保全対策が進められるよう、水生生物指標を用いた水質判定の普及、啓発に取り組みます。

(2) 漁場環境の改善

漁場環境の改善を図るため、英虞湾において、三重の未来を紡ぎ繋げる漁業振興事業による浚渫を実施していきます。

(3) ダムによる河川流量の維持

平常時は水を貯めず、環境への影響が小さい流水型ダム(鳥羽河内ダム)を設置します。

第4節 良好な景観の形成

1 県土の景観の形成

(1) 市町における景観形成の促進

市町の良好な景観づくりへの主体的な取組を支援し、市町における景観計画の策定等を促進するため、景観アドバイザーや職員を派遣します。

(2) 景観形成に関する普及・啓発の実施

地域住民や市町の景観づくりに対する意識の高揚、啓発を図るため、景観交流会への景観アドバイザーの派遣などを行います。

(3) 景観まちづくりの推進

地域の創意工夫やニーズを反映した県民満足度の高い社会資本整備の実現をめざすため、良好な景観や歴史的なまちなみなどの地域資源に配慮した県有施設の整備済箇所を積極的に情報発信し、まちの良好な景観形成を推進します。

(4) 屋外広告物の規制等による良好な景観形成

屋外広告物に関する啓発、指導、取締りを行うとともに、9月10日の「屋外広告の日」に加え、9月1日から9月10日の「屋外広告物適正化旬間」に合わせ、関係機関と連携したキャンペーン活動を行います。

(5) 地区計画制度の活用

令和元(2019)年度においても市町による地区計画の策定を促進します。

(6) 道路・沿道景観の保全・創出

次のとおり、街路の整備を実施します。

表2-4-1 街路の整備（令和元年度）

道路名	都市名
桑部播磨線	桑名市
近鉄名古屋線川原町駅付近連続立体交差	四日市市
野町西条線	鈴鹿市
野町国府線	鈴鹿市
松阪公園大口線外1線	松阪市
外宮度会橋線	伊勢市
外宮常盤線	伊勢市
服部橋新都市線	伊賀市
尾鷲港新田線	尾鷲市

2 農山漁村景観の保全・創出

(1) 農山漁村景観の保全

① 農村の総合的な整備(実施2地区)

農業集落の周辺地域における農業生産性の向上を図るため、地域の多様なニーズに応じた農業生産基盤の整備とその機能の発揮に不可欠な農村生活環境の整備を総合的に実施し、地域の総合的な振興を図ります。

② 中山間地域の総合的な整備(実施7地区)

中山間地域において、それぞれの地域の立地条件に沿った農業生産基盤と、農村生活環境の整備を併せて総合的に行うことにより、農業・農村の活性化を図り、農村地域における生産性と利便性の向上を図ります。

(2) 良好な自然景観の保全

海岸環境や港湾環境の整備、海浜の清掃等の実施により、海につながる景観づくりを推進します。

(3) 松林等の病害虫の防除

松くい虫等の病害虫による森林被害は、森林資源の損失にとどまらず、森林の公益的機能の低下等につながるものです。

このため、関係市町の松くい虫被害対策が効果的に実施されるよう、指導および情報提供を行い、被害の拡大防止に努めます。

第5節 歴史的・文化的環境の保全

1 文化財等の保存・活用

(1) 指定文化財の保存・活用

特に重要な文化財について、将来にわたって保存・活用するため、指定等を行います。また、指定文化財等の現状を把握するため、文化財保護指導委員を中心に巡視・調査を行い、さらに適切な保存とその活用を図るため、所有者や管理者等が行う保護事業に対して支援します。

(2) 埋蔵文化財の調査・保存

① 公共事業に伴う発掘調査

三重県埋蔵文化財センターが、各種開発に伴い発掘調査を行います(表2-5-1)。

表2-5-1 発掘調査予定(令和元年度)

	遺跡数	面積(m ²)
農林水産部関連	3	4,200
県土整備部関連	2	1,090
北勢国道事務所管内関連	4	5,800
紀勢国道事務所管内関連	7	4,000
紀南河川国道事務所管内関連	1	6,000
合計	17	21,090

② 斎宮跡の発掘調査

斎宮歴史博物館では、史跡斎宮跡の解明のための発掘調査を令和元(2019)年度は1か所で実施する予定です。

発掘調査の様子は積極的に公開し、発掘体験・歴史体験を充実させます。

また、これまでの調査成果を整理するとともに、調査管理システムの構築を推進します。

(3) 史跡等指定地域の公有地化の推進

史跡の公有地化と保存・活用を図るため、斎宮跡や伊勢国府跡などの土地公有化および史跡整備に対し補助を行います。

(4) 三重県総合博物館(MieMu)の活用

教育委員会事務局社会教育・文化財保護課および市町教育委員会文化財所管課と連携し、カモシカ、ネコギギ、オオダイガハラサンショウウオ等の情報収集に努めます。

また、県内の関係機関や個人が調査等で収集した標本や資料を受け入れ、適切に保存・管理・活用します。

2 歴史的・文化的景観の保存・活用

(1) 歴史・文化の薫るまちなみの保全・整備

亀山市関宿の伝統的建造物群や、まちなみの一部を形成する国・県指定文化財(建造物および史跡)に対し、保存修理等を実施し、その保存・活用を支援します。

(2) 熊野参詣道(伊勢路)の保全・保護

世界遺産に登録されたことから、世界遺産条約(世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約)に即した遺産の保護や周辺環境の保全対策が必要となります。環境や景観を損なうことなく遺産を守っていくため、文化財保護法による保護、さらに自然公園法、森林法、河川法あるいは関係する市町の景観保護条例等により適切な措置を講じていきます。

また、世界遺産を継承していくため、世界遺産保有地域の「価値」に気づくための普及啓発事業などを推進します。